

# 老健にいがた

第30号

2011.8 Vol.30



## 目次

巻頭言	1
特別寄稿	2
特集：介護現場の ストレス対策	3~4
特集：東日本大震災	5~6
新潟県介護老人保健施設大会	7~8
市民公開セミナー	9
研修会報告	10
協会だより	11~16
老健とわたし	17~18
みんなの広場	19



新潟県介護老人保健施設協会

# 卷頭言

## ～このたびの大震災について～



新潟県介護老人保健施設協会

副会長 松田 ひろし

このたびの東日本大震災に被災した方々に  
謹んでお見舞い申し上げます。

被災地での災害急性期の混乱は少しずつ解消し、人々は徐々に平静の日常生活を取り戻しつつあります。住まいを失った人々も仮設住宅等への転入も始まり、復興に向けて新たな段階へと移行しました。その間、全国から寄せられた老健への様々な人的、物的支援は、混乱期を乗り越えるために大変役立ったと思えます。

しかしその一方、高齢者施設は多くのダメージを受け、また職員も被災し、従来通りの質と量のサービスは入所・通所問わず望むべくものではありませんでした。病弱な高齢者は我慢して復興を待つ精神的、身体的ゆとりはありません。ただでさえ利用が制限されている今日、さらに被災され、結果として介護難民化してしまいます。運よくサービスを利用できたとしても災害援助法発令に伴う緊急入所などで、どの施設もベッドは超過ぎみで、サービスも十分ではありません。また、それまでの住宅から遠く離れた県外の施設への入所を余儀なくされた高齢者も数多くいます。

復興についても、未だいろいろな考えがあります。同じ規格の建物を同じ場所に作る、安全な場所を求めて新天地で再出発する、再建を断念し、事業を終わらせるなど、それぞれの施設の事情により簡単に結論は出せません。また、介護保険の事業主体である市町村も、ところにより壊滅的な被災を受け、介護保険業務そのものが滞っているところも少なくありません。

これらの事情が重なり、その結果として災害弱者たる病弱な高齢者は、当事者であるにもかかわらず、ケアを受けるどころではない状況となっています。このように大変困難な状況にありますが、憲法25条の生存権を脅かすことのないように、そしてこの国、日本が滅びないように願うのは私だけではないと考えます。

『すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する』

日本国憲法 第25条

# 特別寄稿

## ～会長退任に当たって～

新潟県介護老人保健施設協会

顧問 田中政春



私は、会員投票で選出され、介護保険法がスタートした平成12年4月、第3代目の会長に就任しました。当時の会員数は75施設（現在97施設）で、協会の基盤は初代寺田一郎会長、2代目荒川修二会長の指導により出来上がっていました。

投票により選出されたことを糧として新潟県の介護施設や会員並びに協会の発展に少しでも多く寄与できるよう、役員の皆さんと相談して協会を運営して参りました。足らざるところを会員および役員の皆様からご支援いただき、大きなトラブルもなく、4代目会長を石田央先生に引き継ぎ責任の一端を全うできたのではないかと安堵しております。引き継ぎ直前に東日本大震災と原発事故が発生しましたが、その支援関係業務もスムーズに引き継げたものと思っております。

平成16年は大変な年でした。平成16年7月22～23日に第3回介護老人保健施設北陸甲信越地区にいがた大会が予定されていましたが、7月13日中越大水害に見舞われ三条市の好日庵一階が水没しました。職員の機転で人的被害を免れましたが、被災者の受け入れ等で県下の老健は大変混乱した状態でした。こうした中での大会でしたが、「聴こう、語ろう、私達のチャレンジ」をテーマに147施設から736名が参加され、盛会でした。その後、全老健の地区割が変更されて、北陸甲信越地区最後の大会となりました。この時、スタッフは燃えるようなオレンジ色のユニホーム姿で大会を運営し、また、スタッフの異常な熱気が参加者との友情を育み、それがその後も続いています。10月23日に新潟県中越大震災が発生し、多くの施設と職員が被災しました。全国、特に長野、富山県等の近県と岡山県から大勢のボランティアが被災施設に入り、また、義援金等の支援を受けました。義援金は全国の仲間を意識できるように配慮して分配しました。阪神淡路大震災の時に支援チームを派遣した経験があったことと、事務局の奮闘で何とか切り抜けることができました。平成19年7月16日の中越沖地震では、福祉避難所を立ち上げ、被災した病弱高齢者のケアに組織的に対応しました。また、第20回全国介護老人保健施設大会新潟を平成21年7月22～24日に新潟市で開催いたしました。全国から4,875名の参加者を迎える会員のご協力により、成功裏に終了できました。

一方、医療を含む社会保障制度の面でも、波乱に富んだ時期でした。平成16年頃から「規制改革・民間開放推進会議」が政策を決める異常な状況になり、混合診療、民間参入、中医協見直し、介護予防、食費負担導入などが検討され、医療・介護の将来に大きな不安が醸成され

ました。当時の厚労省幹部と尾辻大臣は国会での論議に持ち込み、混合診療の解禁を阻止しました。今後も混合診療・介護は話題になると推測されます。資本・事業家オリエンテッドでなく、国民に良い制度を心掛けて頂きたいと思います。

介護保険法は走りながら考えるとしてスタートしましたが、介護を保健、医療、福祉が一体となり、社会全体で支えるという理念に支えられ定着しました。

老健は、総合的なケアサービス提供施設、在宅復帰施設、在宅ケア支援施設、地域に開かれた施設の4機能・役割を掲げて運営され、のちに、漆原会長の時にリハビリテーションが役割の一つに加えられました。老健の今後は平成24年度から実施される地域包括ケンシスティムにどのように関わるかで、老健の将来が決まる予測されます。現全老健執行部は地域包括ケンシスティムの中核施設に老健を据える活動を展開するものと予想されます。会員の皆様には地域包括ケンシスティムに感心を持たれ、それぞれの地域で参画されることを期待いたします。その為にも人材の確保と職員の質の向上が不可欠です。各種の研修事業を強化することが肝要となります。

介護サービス付き老人ホーム等への株式会社の参入が盛んですが三菱総合研究所は最近介護事業について、「介護保険制度に依存している限り、多くの利益を上げて、ビジネスを拡大できる市場ではないといえる。介護保険だけに頼らず、高齢者に対して付加価値の高いサービスを開発することで、制度依存のビジネスモデルから脱却する必要がある」と指摘している。介護老人保健施設はこのことの意味を吟味しなければなりません。

我が国の財政状況がより効率的で、廉価な医療・介護を求めるることは避けられず、厳しい経営を強いられる時期が迫っています。要領の良い事業者に利益の上がるとこを掠め取られ、割に合わない仕事が老健に押しつけられないように中長期の戦略を立てなくてはなりません。当然のことですが、老健が地域住民から信頼され、経営的に安定し、ある程度の余裕がなければ、高齢社会を支えるシステムの構築に参画できません。会員各位が英知を結集して余裕を作り、老健中心の長寿社会を構築することを期待いたします。

私も全老健の理事として、老健が住民に信頼される医療・介護活動を安心して継続できるように努力する所存です。

11年間におよび会員各位から頂いたご支援、ご協力と新潟県介護老人保健施設協会顧問に推戴頂きましたことに心からお礼申し上げます。

# 介護現場のストレス対策

## — バーンアウトの予防 —

新潟青陵大学短期大学部

准教授 柳澤利之



### 1. はじめに

要介護高齢者の増加に伴い、介護サービスはますますその重要性を増しています。現在、介護現場で働いている人たちが健康を維持し、やりがいをもって仕事にまい進し、それを継続することができなければ、多くの高齢者を地域の中で支えることは困難です。

本稿では、介護現場で心身ともに健やかに、また、やりがいをもって働くために不可欠なストレス対策について、バーンアウト予防を中心に述べたいと思います。

### 2. バーンアウトとは何か？

介護現場で働く人のストレスの指標として、「バーンアウト」（燃え尽き症候群：対人援助職に多いストレス症状）があります。バーンアウト状態に陥ると、精神的な消耗感に見舞われ、仕事のやりがいを感じることができなくなり、利用者に非人間的な態度で接することが目立つようになります。重症化すると、心身の健康は著しく損なわれ、提供されるケアの質は低下し、最終的には離職に至ることも少なくありません。元気に働いていた職員が、突然バーンアウトに陥ることもあります。バーンアウトは特殊な人が陥るものではなく、すべての対人援助職にそのリスクがあるのです。

### 3. バーンアウトの予防

バーンアウト予防については、世界中で様々な研究成果が報告されています。

個人レベルでの予防法として、ストレスコーピング（ストレスへの対処行動）を適切に行うことが有効といわれています。具体的には、ストレスを感じたときに、その原因となることを積極的に克服しようと行動することです。たとえば、認知症の利用者との関わりがストレスの原因で

あるとします。「認知症の人との関わりを避ける」「その場をうまくやり過ごす」と考えるのではなく、上手な職員のテクニックを真似したり、自ら研修に参加して技能を高めたりする方が、ストレスの原因を積極的に克服することにつながり、バーンアウトに陥りにくい行動といえるでしょう。苦手な上司との関わりがストレスの原因であれば、上司の言動に一喜一憂するのではなく、「時間をかけて話し合う」「自分から積極的に関わり信頼関係を築く」などの行動が望ましいでしょう。

しかし、個人レベルの予防法だけでは限界があります。職員を取り巻く環境（人間関係、業務体制、施設運営の方針等）が改善されなければ、バーンアウトの予防は困難であることを多くの研究者が指摘しています。筆者が介護職員を対象に2006年に実施した調査では、「仕事の悩みを誰に相談するか？」という質問に対して、職場内の人々に「相談しない（できない）」と回答した人は、「相談する（できる）」と回答した人よりも高いバーンアウト状態にありました。相談し合える関係性がない職場が、ストレスの多い環境であるということを顕著に現しています。

このように、「職員同士のネットワーク（つながり）」の構築は、バーンアウト予防に有効であるといえます。その他に、「教育や研修」「昇進、昇格、昇給の道筋」「可能な限り効率的で役割が明確化された作業条件」「組織の意思決定への職員の参加」などの職場環境を整備することが、バーンアウト予防に極めて重要であることが明らかにされています。

#### 4. 職場全体で「働きやすい環境」を目指す

最近、介護現場の方からバーンアウト予防に関する職員研修の依頼をお受けすることが多くなりました。特に、経営者・管理者の方からの直接的な依頼が多いことは大変喜ばしいことです。かつては、頑張って働いた結果、多くのストレスを抱え込んでも、「弱い人」という烙印を押され、さらに辛い思いをする人が多くいました。長い間、個人の問題とされてきた職員のストレス対策が、職場全体の問題として認識されつつあるのだと思います。

ストレス対策は、職員個人の努力も必要ですが、それだけでは成果をあげることはできません。また、経営者・管理者の力だけでも、満足ゆく結果を得られないでしょう。「働きやすい環境づくり」を職場全体で取り組むことが、何よりのストレス対策であり、職場内の風通しを良くする（縦横のコミュニケーションを円滑にする）ことがその第一歩です。そのような雰囲気が、介護の世界全体により一層広がってゆくことを願ってやみません。

# 東日本大震災

全老健新潟県支部の救援実績は次の通りです。

- 1 要介護高齢者の受け入れ 15施設 145人
- 2 応援職員の派遣 3施設延べ36人
- 3 義援金総額 7,599,861円 (7月15日現在)



(平成23年5月22日、宮城県石巻市内にて撮影)



## 被災者受入れ施設からのコメント

### 社会福祉法人の使命として、今私たちにできること

介護老人保健施設 てらどまり 事務長代理 安達 孝之

3月11日に発生した東日本大震災により被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々とご遺族の皆様に謹んでお悔やみ申し上げます。

この度の震災により、福島県から当法人関連の9施設に117名の要介護者の方が避難されて参りました。

原発事故により避難指示が出された福島県から新潟県へ要介護高齢者の受入要請があり、新潟県と長岡市との協議の結果、中越地震にて被災高齢者の受入経験のある当法人へ協力要請が寄せられ、南相馬市の介護老人保健施設 長生院 及び同浪江町の介護老人保健施設貴布祢の入居者の方々を受入れさせていただくこととなりました。

避難者の中には重度の要介護状態の方も多く、また震災の影響で体調を崩された状態での長時間の移動も影響してか、ほとんどの方が体調不良での受入れとなりました。その為、受入れ当日は、医師・看護職員・介護職員が待機、到着次第健康状態をチェック、心配していた脱水症状を考慮して水分補給も含め、すぐに通常の提供時間より遅い夕食を摂っていました。食事中に皆様から安心安堵の表情が見られたのは緊張感の張り詰めていた受入れ現場が一瞬和らいだひと時でした。

当施設では定員147名の他に20名の避難者を受入れましたが、入院等で現在14名、平均要介護度3.9の方々が生活しております。定員超過の施設内は部署間の助勤等により少しづつ落ち着きを取り戻

## 特集：東日本大震災

してきているように見えますが、いまだに入退院を繰り返される方や体調不良が続いている方もおり、避難されている皆様が本当に落ち着きを取り戻せるのは福島へ帰ることだと確信しております。一日も早い被災地の復興と帰郷できる日を切に願っております。

### 被災地へ派遣された職員からのコメント

#### 被災地施設の応援体験を通して学んだ事

介護老人保健施設 優和の里 介護福祉士 平田 明

あの大震災から4ヶ月が過ぎました。私は、5月の始め頃から約2週間、被災地の介護老人保健施設へ介護の応援要員として出向きました。病院の入院患者様が増加し、老健施設の定員数が増え、マンパワー不足で個々の利用者様へのケアが提供できない状況にありました。余震が続く中、再び、あの大好きな地震が来たらどうしようと、少なからず不安を感じましたが、被災された方々のために、何か役に立ちたいという思いで、利用者様のケアにあたりました。

利用者様の中には、震災の影響でPTSDや失語症になった方もいて、自分がどう言葉かけをし、接すればよいのか分からず戸惑う場面もありました。そんな時、利用者様の笑顔や、「遠い所から、ありがとうございます。」と感謝の言葉をもらって、逆に励されました。震災にめげず、力強く生きるその姿と、命の尊さに感銘を受けました。

新潟県中越地震では、私の住んでいる所には、地震による被害はほとんどありませんでした。しかし、新潟は地震の多いところです。もし、実際に津波などの被害に見舞われた時に、どう対処していくべきかを考えて行かなければなりません。今回の東日本大震災での経験を生かし、それぞれの施設でも防災設備やマニュアル・避難訓練方法・備蓄等、日頃からの意識を高め取組んでいく姿勢が必要であると思います。

#### 災害ボランティアに参加して

介護老人保健施設 秋葉の郷 介護員 渡辺 智美

はじめに、このたびの東日本大震災により亡くなられた皆様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害に遭われました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

私は、去る5月19日から22日までの4日間、宮城県石巻市河北総合センターにおいて災害ボランティアとして活動して参りました。そこには約500人もの人々が避難所生活を送っており、私を含め3人のボランティアで連日昼夜、要介護者の排泄ケア・移動介助（見守り含む）・清潔保持・レクリエーション等に関わらせて頂きました。私が派遣された時には震災より2ヶ月が経過しており、前々のスタッフから業務の流れも確立していて、比較的物品も整っていましたが、ただプライバシーのない生活の中で段ボールをつないで作った仕切りを立ててのおむつ交換や清拭には仕方ないとも思う反面、非常に抵抗を感じ、後になってもう少し工夫ができたらよかったと思いました。また避難者の中には、家が流されたり家族や友人を亡くされたり、まだ家族で見つからない人がいたり等々辛い体験を話してくださる方もいて、私は言葉に困りただただ聞くことしかできませんでした。4日間と短い期間でしたが、そこで学びは大変大きかったです。避難者と同じ環境の中で4日間を過ごして避難所生活の大変さを実感し、今はとにかく1日も早い現地の復興を期待しています。

# 平成22年度 新潟県介護老人保健施設大会

平成23年1月27日(木)新潟ユニゾンプラザにおいて「新潟県介護老人保健施設大会」が開催されました。今年は73施設から約400名の参加をいただき、6会場にわかれ口演68題・ポスター発表20題となりました。また、市民公開セミナーもあわせて開催されました。

## ～開会式～



会長：田中 政春



新潟県福祉保健部長  
若月 道秀様



新潟県医師会会长  
渡部 透様



新潟県老人福祉施設協議会副会長  
市井 栄吉様



副会長：松田 ひろし

## ～発表の様子～



## ～学術奨励賞受賞演題～

演題	施設名	発表者
【まんまなじらね】	いっぷく	長谷川 隆之
認知症専門棟における看取りへの取り組み	越南苑	亀倉 よし子
私たちが知らない顔がたくさんある	グリーンヒル与板	近藤 裕美
どこまで減らせる介助中の事故!?	ケアポートすなやま	真柄 茜
茶々っと消臭きれいな手	さくら苑	涌井 かほる
認知症との関わり	白根ヴィラガーデン	杉崎 聰美
この方と、もっと沢山お話しがしたい	楽山苑	見邊 大輔

### ～閉会式～



講評：理事 松田 由紀夫



講評：理事 樋熊 紀雄



閉会の挨拶：副会長 馬場 肝作

### ～参加者の声～

- \*各々の施設が工夫していること、悩んでいることを知る機会となりとても参考になりました。
- \*普段気付かないことやもっと詳しく対象者の方を理解している発表が多くかった。
- \*色々な視点が見え、日々の業務を行う上で参考になることや改めて考えなくてはいけない思うことが多くありました。
- \*他施設での取り組みや活動内容を知り、勉強になった。
- \*自分の施設がかかえる問題を他施設も同じように感じているのだと思うと、一緒に頑張れる気がしてパワーをもらえる。
- \*他施設で力を入れていることや特色を知ることができ、当施設でも活用できる事柄・知恵が多くあった。それらの点を当施設でも上手く活かしていきたい。
- \*冬季での大会は天候の関係もあるので暖かい時期に行って欲しい。

# 市民公開セミナー

## 長寿社会における脳の健康 ～ここまで分かってきた生活習慣病と認知症～

講師として東京医科大学老年病学講座主任教授の岩本俊彦先生をお迎えしました。講演では生活習慣病の方のアルツハイマー病の発症率が高いことを説明し、生活習慣病の予防、終始、頭を使うことの大切さについて述べられていました。スライドも沢山使用され、一般の方々にも大変分かりやすく興味深い内容でした。また、一般市民も合わせ514名の参加をいただき、多数となったため中継会場にも分かれて聴講しました。



講師：岩本 俊彦先生

### 講師プロフィール

いわ まと とし ひこ  
岩 本 俊 彦

東京医科大学老年病学講座主任教授  
1972年3月 東京医科大学 卒業  
1972年6月 東京医科大学病院 内科学教室に臨床研究員として勤務  
1977年1月 東京医科大学助手に任命され老年病学教室勤務  
1978年1月 蕨市立病院内科医長として派遣  
1982年1月 脳血管研究所 美原記念病院内科医員として出張  
1983年11月 立川総合病院表町病院内科医長として派遣  
1986年2月 東京医科大学 臨床講師に任命  
1987年1月 Montefiore Medical Center神経病理部門に研究出張  
1988年4月 東京医科大学リハビリテーション科 併任  
1993年7月 東京医科大学助教授に任命  
2004年4月 東京医科大学老年病学講座 主任教授  
2007年1月 東京医科大学病院 病院長に就任  
2009年8月 同病院長を退任、現在に至る

### ～講演の様子～



### ～参加者の声～

- \*分かりやすいセミナーでとても勉強になりました。
- \*入所者の意向も踏まえた上で、できるだけ自分で動くこと行動することの重要性を感じました。
- \*生活習慣病と認知症について深く関係していることが分かりました。

# リハビリテーション研修会伝達講習

平成23年2月10日・11日に行われました、全国老人保健施設協会主催の「平成22年度リハビリテーション研修会」の伝達講習として本研修を開催しました。平成24年に実施される医療保険・介護保険の同時改定に向けて、介護老人保健施設の状況・リハビリテーションの有り方・R4システムについての講義がありました。

日 時：平成23年3月18日（金）  
会 場：新潟ユニゾンプラザ  
参加施設：37施設  
参加人数：52名

【講義Ⅰ・Ⅱ】 楽山苑 理学療法士 笹川幸絵氏 「平成24年同時改定に向けて」「大規模多機能のリハビリテーション」



東日本大震災後まもなくで、あわや計画停電という日にも拘らず多数ご参加いただきました。老健のリハビリテーションへの期待や、やる気を感じることができ、講師側にも元気を頂戴しました。「チームケア」や「連携」「協働」は老健における永遠の課題ですが、大きなやりがいもあります。今回伝達したいいくつかのヒントを基に、私自身も含めて、皆でがんばっていきましょう。

【講義Ⅲ】 楽山苑 言語聴覚士 西野陵輔氏 「R4システムとリハビリテーション」



R4システムは、他職種協同で作りあげていく老健施設独自のケアマネジメントシステムです。「私はリハビリだからケアプランのことは関係ない」ではなく、しっかり学び、確かな知識をつけ、リハビリの視点でケアプラン作成に関わってもらいたいと思います。今回の勉強会で伝えられたことを少しでも参考にして頂けたら幸いです。

## 【グループワーク】

「認知症リハビリテーション」  
「在宅復帰支援」



## ～参加者の声～

- ☆老健に期待される役割がわかり、そのために身体的にも精神的にアプローチしなければならない重要性を再認識した。
- ☆小規模がよいと思われる中、大規模であることのメリットを再確認できた。しかし、意識的にメリットを生かす働き方をしなければならないと感じた。



## 平成23年度通常総会開催

平成23年度通常総会が平成23年4月20日、ANAクラウンプラザホテル新潟で開催された。冒頭、石田央新会長が挨拶され、東日本大震災の犠牲者へ1分間の黙とうが行われた。その後、事務局より総会時の会員数96名のうち20名が出席（他に代理出席5名）、委任状提出会員69名で計89名となり、定足数を満たし本総会成立の報告の後、議長に清流苑の大森隆先生を選任し進められた。また、議事録署名委員にいいでの里の姉崎静記先生、

さどの服部晃先生が選任された。議題に入る前に、①各委員会報告②社団法人全国老人保健施設協会関東・甲信越ブロック代表者会（H22.12.2、H23.2.5）報告③社団法人全国老人保健施設協会代議員会（H23.2.17）報告④役員の委員会担当体制について⑤東日本大震災への対応状況⑥災害派遣時の保険加入について報告があり、その後議事に入った。第1号議案：平成22年度事業報告案・収支決算案に関する件、第2号議案：平成23年度事業計画修正案・収支予算修正案に関する件、第3号議案：4員会委員の選任における基本方針の件、第4号議案：顧問委嘱の件、第5号議案：岩手県、宮城県及び福島県支部への支援金について活発な審議がなされた。全議案が原案通り議決された。総会終了後に、平成22年度新潟県介護老人保健施設大会の優秀演題（7題）の表彰式が行われた。

[事務局 佐藤]



## 平成23年度事業計画

### 会議

- (1)通常総会 会則第11条の規定に基づき年1回開催する。
- (2)臨時総会 会則第11条の規定に基づき必要に応じて開催する。
- (3)役員会 必要に応じて開催する。

### 委員会

【学術研修委員会】年6回程度必要に応じ開催し、研修会等の実施について具体的な事項を検討する。

【広報委員会】年6回程度必要に応じ開催し、機関誌の編集・立案、及び協会ホームページの管理・運営について検討する。

【トラブル防止検討委員会】事故・トラブルの未然防止を主目的とした研究をする。

【事務長会】実務的な問題事項を検討し、必要に応じ事務長会議を開催する。

### 新潟県介護老人保健施設大会

開催日：平成23年12月8日(木)新潟ユニゾンプラザ

発表演題は各施設1題以上とし、参加者数は制限せず多数の参加者を募る。

### 研修事業

- ・介護支援専門員養成講座 平成23年8月25日(木) アトリウム長岡
- ・現場すぐできる実践講座 平成23年10月3日(月) 新潟ユニゾンプラザ  
(施設内ケアプラン)
- ・高齢者のリハビリテーション 平成23年10月27日(木) アトリウム長岡
- ・市民公開セミナー 平成23年12月8日(木) 新潟ユニゾンプラザ
- ・現場すぐできる実践講座 平成24年2月7日(火) 新潟ユニゾンプラザ  
(職場環境作り・認知症ケア)

### 施設運営アンケート調査の実施

必要に応じて実施する。

### 機関誌の発行

機関誌「老健にいがた」第30号・第31号の発行

## 全老健 第35回通常代議員会報告

代議員：馬場 肝作

平成23年2月27日東京プリンスホテルにて、全老健第35回通常代議員会が開催された。

### 1. 議案

第1号議案 平成23年度事業計画案について

第2号議案 平成23年度収支予算案について

両議案は関連事項であることから、一括審議することとし、三根総務・企画委員長が議案説明を行い原案のとおり可決承認され、総会に付議することとされた。

第3号議案 次期（第12期）役員改選について

①次期会長候補者の選出

次期会長立候補者の川合秀治氏、山田和彦氏の両名がそれぞれ所信表明を行い、

出席代議員による投票が行われた。開票の結果有効投票数83票のうち、過半数を超える票を得て、山田和彦氏が次期会長候補者として決定し、総会における選任を求めることがされた。

②次期ブロック推薦理事候補者の選出

次期ブロック推薦理事立候補者は13名であり挙手による採決の結果、原案のとおり可決承認され総会における選任を求めることがされた。

③次期監事候補者の選出

次期監事候補者は東京都の山田禎一先生と塩原公認会計士事務所・塩原修蔵先生の2名であり挙手による採決の結果、原案のとおり可決承認され総会における選任を求めることがされた。

第4号議案 公益社団法人移行のための定款変更案の一部修正案について

第5号議案 公益社団法人全国老人保健施設協会定款施行規定案の一部修正案について

第6号議案 公益社団法人全国老人保健施設協会会費規定案の一部修正案について

第7号議案 社団法人全国老人保健施設協会代議員等選任規定一部改正案について

第8号議案 公益社団法人全国老人保健施設協会役員の報酬等に関する規定案の一部修正案について

第4号議案、第5号議案、第6号議案、第7号議案、第8号議案はいずれも三根公益法人改革特別委員会委員長から説明があり、原案のとおり可決承認された。

### 2. 報告事項

(1)第22回全国介護老人保健施設大会 岩手について

(2)第23回全国介護老人保健施設大会 沖縄について

(3)平成22年12月31日現在加入状況

(4)各都道府県支部一覧及び代議員等名簿について

(5)第24回全国介護老人保健施設大会開催支部について

## 全老健 第36回通常代議員会・第26回通常総会報告

代議員：石田 央

平成23年6月15日東京プリンスホテルにて、全老健第36回代議員会及び第26回通常総会が開催された。

### 1. 議案

第1号議案 平成22年度事業報告（案）について

第2号議案 平成22年度収支決算（案）について（江沢総務委員長）

監査報告；山田禎一 適切であると報告あり。第1号議案、第2号議案は可決された。

第3号議案 近畿ブロック推薦理事の補充選任について

川合秀治理事より辞任要求があり、河崎茂子理事候補者が推薦・可決された。

第4号議案 名誉会長の推戴について

山田和彦会長より川合秀治前会長を名誉会長とした旨提案があり可決された。

### 2. 報告事項

① 第22回全国介護老人保健施設大会 岩手の中止について（東日本大震災のため）

② 第23回全国介護老人保健施設大会 沖縄について（期日：平成24年10月3日～5日、会場：沖縄コンベンションセンター他）

③ 平成23年4月30日現在加入状況（正会員施設 3408、未加入施設 335、加入率 91%）

④ 都道府県支部一覧

# 平成22年度事務長会議報告



全老健常務理事 内藤圭之先生

平成22年度の新潟県介護老人保健施設協会事務長会議が平成23年2月25日(金)にANAクラウンプラザホテル新潟にて開催されました。今回の会議の出席者数は95名ありました。

まず、開会の挨拶において田中政春会長から事務長さん方には日頃大変ご苦労いただいていること、また自分は今年度限りで会長職を石田先生に引継ぎ、会長として最後の挨拶であること、また来年度の診療報酬・介護報酬同時改定に向けて諸要望を働きかけていくと述べられました。

続いて、新潟県高齢福祉保健課施設福祉係の高井主事から介護老人保健施設の適切な運営についての説明と注意点のお話があり、実地指導の状況についてもお話をありました。

続いて、今回の事務長会議において始めての試みとして12のグループに分け、グループワークを行いました。内容は「各施設の抱えている課題」ということで熱心な討議があり、貴重な場をもつことができました。内藤先生からのご講演の前に(株)ジェイ・シー・アール(IHI代理店)から除菌・脱臭器の説明を受けました。

今回のメイン講演として全国老人保健施設協会常務理事、介護老人保健施設なのはな苑理事長内藤圭之先生より「2012年医療保険・介護保険同時改定へ向けて」～現状と今後の課題～と題して、老健の現状と来年の医療保険・介護保険同時改定に向け資料に基づいてご講演をいただきました。内容としては前回の介護報酬改定は加算の積み上げによるものであり、本体報酬は据え置きでした。介護従事者の人材確保のためプラス3%改定とはいえ、手厚いサービス・多機能のある個々の事業所を評価したものであり、有利子負債の評価、医療提供の評価等課題を残しています。一方財源問題をどうするか。すなわち【PAY AS YOU GO】原則による社会保障財源問題も重くのしかかることになります。今後、当局へは重点要望事項を働きかけていくと説かれました。

(事務長会委員長 山宮 正人)



田中政春会長

# 新理事紹介



## 介護老人保健施設 三面の里 理事長 戸澤 和夫

このたび思いもよらず理事にご推挙いただきました。若輩浅学ではあります  
がよろしくお願ひ申し上げます。まずはこのたびの東日本大震災により亡くな  
られた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々に心よりお  
見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。私の勤  
務する三面の里は県北の村上市に位置し、平成2年に開設されました。私自身  
は平成8年に東京の一般病院から当地に施設長として赴任しました。それまでも高血圧の患者さんを  
中心に高齢者に接することが多かったためか、制度以外のところではあまり戸惑いはなかったよう  
に記憶しています。しかし、平成9年から併設の現在療養型の病院である肴町病院の病院長を兼務する  
ようになってからは、ほとんど病院が主となり入所者と接する機会は少なくなりました。現在療養型  
病院を含め高齢者医療介護の方向性が不透明な状況だと思われます。その中で介護老人保健施設の役  
割等も複雑なものとなる可能性が高いと思われます。理事の一人として可能な限り協会とともに仕事を  
させていただきたいと思いますので、皆様のご教示ご鞭撻をお願い申し上げます。



## 介護老人保健施設 陽光園 施設長 土田 勲

学歴 新潟大学医学部 昭和39年卒  
新潟大学付属病院インター終了  
医学研究科卒

職歴 昭和44年 豊栄病院、県立がんセンター新潟病院  
長岡日赤病院、日本生命相互会社、小針病院  
昭和31年富山県から新潟県に。以来平成元年に初めて県外に。徳洲会病  
院、青海病院、栃木県南病院、上村病院

平成12年から陽光園に勤務しています。今回予備代議員に立候補して当選し、石田会長に学術研修  
委員会担当理事に選ばれました。今後は学術研修委員会担当理事の職責を全うすべく皆様方の御支援  
を賜りたく宜しくお願ひします。



## 介護老人保健施設 アビラ大形 理事長 鈴木 雄二

私は長岡生まれで長高・新大（10年）を卒業し、県立小出病院に4年勤めて  
から、現在の勤務についております。時代には、それぞれの問題がありますが、  
今の日本では人口の大幅な変化に対応しなければなりません。新潟県の人口は、  
西暦1000年に比し、2011年に全人口が4%減少し、65歳以上では17%増加して  
います。意外に少ない感じですが、もう1~2年すると昭和21~23年に生まれ  
た第一次ベビーブームの人達が65歳以上に入るため、大きな変化が訪れます。それに伴い、看介護者の  
増加が求められます。そのため、外国人を移民で受け入れて対応することも考えられていますがどう  
なるでしょう。これから先、数十年は大変です。高齢者が不幸な目を見ないように若い人達はよく  
考えてこの問題を解決していくかなければなりません。

(開設順に掲載)

# 委員会紹介

## — 各委員長に抱負を伺いました —

### 【事務長会】

委員長 山宮 正人

3月11日午後2時46分、未曾有の地震そして津波が東日本を襲いました。さらに福島原発の水素爆発とメルトダウンも起きました。その日その時間、私は車を運転しており、やけにハンドルがとられ、車が不自然な揺れ方をしたので、嫌な予感がしたが事実は現実のものとなり大震災となってしまいました。いまだに、被災地では避難生活を余儀なくされている方々がどんなに不自由な生活をされているかと思うと心が痛みます。また、原発による放射能汚染も広がり、福島原発の収束もめどが見えてこない状況にあります。

一方、政治は混沌としており、この一大事の時に復興支援について本当に被災地のことを考えているのか、多くの国民が疑問をもち政府について信頼をもっていない現状にあります。

さて、このたび県老健事務長会委員長に就くことになり、微力ながら老健施設のますますの発展に、少しでもお役に立てればと思っている次第であります。

先般の介護報酬改定だった平成21年4月を思い起こして見ますと、政府の緊急経済対策の名の下に「介護従事者の待遇改善と人材確保のため、平成21年4月には介護報酬を3%引き上げる」という項目を政府は盛り込みました。介護現場で働いている人の月給が2万円くらい上がるかなという感じです。実際には外付けの税金により、介護職員待遇改善交付金で対応がなされました。これも3年間の期限付きで、今年度をもって打ち切りになる予定ですが、介護報酬で吸収されるのかどうか、職種は介護職以外にも拡大できるのか、外付けになるのか、来年度の介護報酬改定で大きな問題となりそうです。財源問題が大きくのしかかっていることがその理由です。

また、先般の介護報酬の引き上げは、利用者にとってはサービスの値上げを意味し、利用総額が支給限度額を超え、超えた分は100%自己負担となるために、サービス利用を控えてしまう結果、施設の収入は変わらず、減収にもなりうることも予想されました。

更に先般の介護報酬には、「加算」という仕組みがあり、「このようにすれば高い報酬を受け取れますよ」という高いハードルを設定したものであり、サービス提供側、受ける側共に負担の掛かる改定となったのではないかでしょうか。また、サービス提供側、介護保険サービスをどれだけ受けられるかを決める「要介護認定」基準が改定されました。従来より受けるサービスが減る人が増えたとする意見には、厚労省はその影響を調べた結果、「非該当」と軽度（要支援1・2、要介護1）と認定された人は全体の53.6%、一方で中・重度（要介護2～5）の人の割合が減り、改定後は軽く判定される傾向が現実となりました。

このように、介護保険制度そのものに大きな課題を残しているなかでの来年度の介護報酬改定には目を離せません。それも診療報酬改定とのダブル改定ですし、さらに震災復旧の予算とののはざまでこの国の医療、介護分野を国はどうに考えていくのか、介護保険制度発足以来の地道な老健施設の活動・存在をどう評価してくれるのか、切に念願しているところです。

	施設名	氏名		施設名	氏名
理事	越南苑	石田央	委員	グリーンヒル与板	遠藤真一
委員長	女池南風苑	山宮正人	委員	やまぼうし	斎藤誠司
委員	アビラ大形	中村久美子	委員	米山爽風苑	藍澤豊子

## 【学術研修委員会】

委員長 佐藤 主一

東日本大震災に被災された方々へ、心よりお見舞い申し上げます。

このたび学術研修委員長を仰せつかりました、長岡三古老人福祉会グリーンヒル与板の佐藤と申します。重い任務をいただき不安も多いですが、会長及び理事の先生方をはじめ、委員の皆様よりお力を賜り、精一杯努めたいと思います。制度改定により老健の役割が問われる昨今ですが、ご利用者の生活に注目し地道に学んでいきたいと考えます。どうぞよろしくお願ひ致します。

	施設名	氏名		施設名	氏名
理事	ケアポートすなやま	松田由紀夫	委員	白根ヴィラガーデン	吉原ゆき
理事	女池南風苑	樋熊紀雄	委員	関川愛広苑	島田篤史
理事	陽光園	土田勲	委員	千歳園	佐藤貴之
委員長	グリーンヒル与板	佐藤主一	委員	てらどまり	渡部綾子
副委員長	アビラ大形	深谷真紀	委員	桃李園	稻川幹子
副委員長	楽山苑	笹川幸絵	委員	女池南風苑	佐藤千賀子
委員	くびきの	山本由紀子	委員	やまぼうし	平野智子
委員	ケアポートすなやま	酒井幸恵	委員	米山爽風苑	小森貴子
委員	春風堂	鈴木智子			

## 【トラブル防止検討委員会】

委員長 堀 一二美

今年度からトラブル防止検討委員会の委員長を務めることになりました堀 一二美と申します。私は以前からこの委員会に所属しておりましたが、皆様には毎年トラブルに関するアンケートや事例等について多大なる御協力を頂き誠に感謝しております。今年度は理事の先生方、委員の方々も大幅に入替わりますが、今までの業績を活かし、新たな取組みも委員の心をひとつにして模索していく所存であります。今後ともトラブル防止検討委員会のご協力をよろしくお願ひ致します。

	施設名	氏名		施設名	氏名
理事	米山爽風苑	松田ひろし	委員	はねうまの里	長谷川 学
理事	三面の里	戸澤和夫	委員	みずき苑	杉田浩子
委員長	三川しんあい園	堀一二美	委員	やまぼうし	本間香代子
委員	ケアプラザ見附	樋口智	委員	楽山苑	斎藤周司

## 【広報委員会】

委員長 桐生 エリ子

今年度は広報委員も新たな顔ぶれになりましたが、すでに行われた会議では、活発な意見交換があり、新米委員長の私には大変心強い味方です。今後も多様化する入所者のニーズ、自然災害や感染症など時節に沿った内容で皆様に役立てていただけるよう、担当理事の先生方にもご指導をいただきながら、年2回の広報誌「老健にいがた」の発行、HPの見直し等を行っていきたいと思います。何卒よろしくお願ひします。

	施設名	氏名		施設名	氏名
理事	やまぼうし	馬場肝作	委員	ケアポートすなやま	藤澤 泉
理事	アビラ大形	鈴木雄二	委員	さつき荘	斎藤由香
委員長	やまぼうし	桐生エリ子	委員	豊浦愛広苑	田邊桂子
副委員長	てらどまり	小黒由実	委員	なでしこ	権守麻衣子
副委員長	楽山苑	殖栗真弓	委員	松浜さくら園	服部洋子
委員	いいでの里	山本貴之	委員	米山爽風苑	春日由紀夫

# 老健とわたし

様々な職種の職員が、それぞれの専門性を生かしながら施設を支えています。その職員の声と人柄をお届けします。

## 質問内容

- a. 出身地
- b. この仕事を選んでよかった事
- c. 趣味
- d. 私のストレス解消法
- e. メッセージ



## とちお 医師・施設長 丸山倫夫

- a. 妙高市
- b. 米寿・卒寿・白寿といったお年寄りとお話しできる事
- c. 読書・お寺巡り
- d. 散歩と昼寝
- e. 施設の入所者さまの平均年齢は86歳、平均介護度4と、超高齢化社会の現場ですがスタッフに支えられてやっております。



## はねうまの里 看護師 平野洋美

- a. 妙高市
- b. 利用者様と沢山話ができ、楽しく笑えること
- c. DVD鑑賞（韓流）
- d. 友達とのおしゃべりすること・温泉に行ってゆっくりすること
- e. はねうまの里に勤務して3年目になりますが、看護・介護さん達と毎日楽しく仕事をさせてもらっています。これからも、利用者様と触れ合いを持ちながら笑顔で頑張っていこうと思っています。



### マザリーミス 条 介護士 西 丸 裕 子

- a. 三条市
- b. 沢山の知識を得ることができる事
- c. ドライブ
- d. 友人と話し込むこと
- e. 介護の仕事に就き3年が経ちましたが、まだまだ自分の至らなさに気付かされる事が沢山あります。細かい事にも気付き対応できる先輩方を見習いながら入所者様に寄り添った介護が出来るよう勉強していこうと思います。



### マチュアハウス横越 管理栄養士 佐 藤 尚 美

- a. 新潟市秋葉区
- b. たくさんの笑顔と出会えること
- c. おいしいもの食べ歩き
- d. たくさん食べて、ゆっくりお風呂に入り、たっぷり寝ます。
- e. 施設名のマチュアは、「成熟した、円熟した」という意味です。人生の歴史を経て人間として円熟した、ご利用者様の心が温まるようなお食事が提供できるよう心がけてゆきたいと思います。



### 松浜さくら園

#### 通所リハ職員（言語聴覚士） 長 谷 川 孝 樹

- a. 新潟市
- b. 利用者様との会話を通し、昔のしきたりや生活習慣について学べること
- c. 音楽鑑賞・エコドライブ
- d. 3歳の息子と戯いっこをする
- e. 介護保険制度開始とともに老健に勤め、はや十数年。幾度かの制度改定により戸惑う事もありましたが、多くの経験を積む事ができました。今後もより良いサービスが提供できるよう、日々精進してゆきたいと思います。

# み れ な の 広 場



## マザリー三条

三条市では、毎年6月に「三条凧合戦」が行われます。

当施設でも入所者様と大きな六角凧を作りました。空に飛ばせるよう凧の骨組もしっかり作り、迫力ある作品が完成しました。大空にあがる凧を想い話が弾みました。

## マチュアハウス横越

プランターに利用者の方からコシヒカリを植えていただき育てています。

収穫から脱穀まで全て手作業で行われました。  
昨年は、おにぎりにしておいしく頂きました。  
今年もスクスク育っています。



## 松浜さくら園

5月の鯉のぼり、鱗の部分は貼り絵やデッサンで一人一人個性的な鯉を描いていただきました。大きなパネルで悠々と泳いでいます。ステンドグラスは個人作品で心を和ます穏やかな光をたたえています。

## 編集後記

平成23年3月11日、東北地方を襲った東日本大震災、原発事故、未曾有の災害がありました。まだまだ余震の続く中、着実に復興へ進んでいるのではないでしょうか。今回も皆様のご協力を得て「老健にいがた」第30号を発行することができました。編集に際し原稿依頼に快くご協力頂いた皆様に紙面を借りて御礼申し上げます。今号より広報委員の顔ぶれも一新されました。今後も様々な情報を解りやすく提供できるように広報委員一同頑張りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

(広報委員一同)

## 新潟県介護老人保健施設協会広報誌 「老健にいがた」 第30号

編集・発行：新潟県介護老人保健施設協会  
広報委員会  
〒949-7101 新潟県南魚沼市五日町2405  
介護老人保健施設 越南苑内  
TEL (025) 776-3668  
FAX (025) 776-3755  
印刷 吉原印刷株式会社